

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0971000252		
法人名	特定非営利活動法人にちちそう		
事業所名	グループホームにちちそう		
所在地	栃木県大田原市富士見1-1604-45		
自己評価作成日	平成22年9月1日	評価結果市町村受理日	平成22年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年9月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝のミーティングや入居者会議、職員会議に於いて、入居者の状態・希望・考えを把握する努力をしている。また、理念にもあるように、「入居者の心身状況・希望・置かれている環境に応じ、充実した生活を送れる」よう介護サービスを提供している。外出の機会を設け、地域の催し等への参加も心がけている。民家改修型の強みである「家」そのもの、家庭的な雰囲気作りに努めている。地域の方々にも「施設」ではなく「家」として溶け込んでいる。入居者会議において入居者自らがより良い暮らしのために、意見、希望を話しあい、入居者、職員みんなでグループホームを作り上げている。個々に役割を持ち、入居者同士が助け合い暮らしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは大田原市の中心部の住宅地に位置する民家改良型のグループホームである。居室はそれぞれに間取りや大きさに違いがあり、入居者各々に個性的で家庭的な雰囲気をつくりだしている。ホームでは運営方針にもあるように、入居者の自立支援と充実した生活を送るために入居者の意欲や機能に応じた支援に取り組んでいる。また、地域行事への参加や散歩等の外出時を利用して地域住民との交流にも積極的に取り組んでいる。職員は入居者の暮らしの充実を図るため、入居者会議や職員会議等を開催し、入居者の要望や考えなどを把握しながら日々の支援につなげる努力をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの理念は共有しているが、実践につなぎきってはいない。	理念を基に入居者のより良い生活を維持しながら地域の一員としての暮らし続ける事に取り組んでおり、職員間でも話し合いを重ね、理解の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物などを通し、声を掛け合う機会を作っている。また行事(敬老会、バーベキュー、地域の方によるボランティア)をきっかけとして、おつきあいを広げつつある。	地域の行事に参加している他、買い物や近隣への散歩時等に地域住民と声を掛け合っている。ホームの広報誌を地域へ回覧し、ホームへの理解を深める取組みやボランティアの参加を呼びかける等、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会と題し、入居者様、ご家族様、運営推進会議委員、地域の方と施設内で食事会を開き、グループホームや認知症に対し理解していただいているが、支援の方法を地域の人々に向けて活かしてきれていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議において、利用状況を報告し、意見交換をしサービスの提供及び向上に活かしている。また行事や施設内の設備等(段差改善策)にも意見をいただいている	会議は2か月毎に開催されており、ホームの状況等報告や参加メンバーとの意見交換が行われており、施設運営の改善や入居者へのサービス向上に活かされている。	会議メンバーが固定化してきている事から、議題に応じて専門家(該当機関職員)の出席を仰いだり、入居者家族についても特定家族の参加になることなく交代で出席を仰ぐ等、さらに会議が充実し運営に活かせるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者連絡協議会(情報交換会等)、ケアマネージャー連絡協議会等への参加により情報交換、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当職員とは随時連絡を取り合い、連携を図っている。また、市内の事業者連絡協議会やケアマネージャー連絡協議会などに参加し、市や同業者と情報交換や研修等により、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	合同研修会を行ない、身体拘束をしないケアの理解を深め実践している。	同法人の合同研修会に参加し、身体拘束に該当する行為の理解を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関や居室等は職員の見守りにより施錠しないケアを実践している。	

グループホームにちにしちそう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同研修会において虐待とは何かとの理解を深めると共に、不明な傷等があった場合には、職員間で確認するなど注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性については検討しているが現在のところ、対象となる入居者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書等により説明し、施設の方針を理解していただき、疑問や不安がある際には随時説明を行っている。解約に関しては医療機関や福祉施設等の関係者と連絡を取り合い、家族に納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置。また、苦情窓口は契約時に説明し施設玄関に苦情窓口連絡先を掲示している。入居者会議を実施し入居者の意見を聞き、家族に対しては1カ月の生活状況を送付、来所時には意見を聞きとり、運営に反映させている。	入居者会議を定期的開催し、入居者の意見や要望を確認している。家族に対しては、契約時に苦情受付窓口等を説明している他、利用料の支払い時等で来所した際に意見や要望を確認している。入居者及び家族から出された意見等は運営に反映させる取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で話し合い反映させている。また朝のミーティング時に意見を述べる機会を持っている。	全職員が参加する職員会議を毎月開催しており、積極的に話し合いができるようにしている。また、毎朝のミーティング時等にも自由に意見や提案を表わせる機会も設けている他、施設長と職員の個別面談等も随時行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面接等で各々の実績や、努力を評価し、賞与等で反映し、向上心を持って働けるように努めている。職員同志での意見交換、協力などを通し積極性と向上心を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数等を考慮し、取得できる資格等について話し合い、資格取得や研修の機会を確保できるよう協力している。また研修参加者は職員会議時、報告し全職員が学べる機会を持っている。また月一回の合同研修会をおこなっている。		

グループホームにちにしそ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡協議会、ケアマネージャー連絡協議会への参加を通してサービスの向上に取り組んでいる。地域密着型の情報交換会を行っており、見学や実習など同業者との交流する機会が増えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込書受付時に家族からご本人の情報を聞き、入居決定前にご本人を訪問し状態等を再度確認する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャー始め、各職員が家族の希望、不安等、求める機会を作り、また、職員が代弁者となり介護計画に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な聞き取りをし、必要があれば他事業所への紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶わん拭き、洋服畳、畑仕事、花のみずやり等、可能な限り自立した生活が送れるよう職員のサポートのもと行なっている。また伝統行事や風習など、利用者に学んだり、手伝ってもらうなど協力しあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入居者の生活状況を書面で送り、面会時などにも再度状況を話す機会をもつことにより、家族であるからこそ話せる精神的な不安やストレスの解消を図って頂くなど本人と共に支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容店や店を利用するなど以前からの関係が途切れないよう、支援している。	本人の生活状況や家族の意向等の把握に努め、日常生活の中から本人の希望等も確認しながら行きつけの理美容店に行ったり、墓参りや実家の確認に出掛けており、馴染みの場所等との関係継続の支援をしている。	

グループホームにちにしちそう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座席の位置決めやレクリエーション、日常の役割、お手伝いを通して、利用者同士が協力し支えようと共に、良い関係づくりができるよう努めている。入居者会議(にこにこ会)にて、より良い暮らしのために話し合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所者に対し、様子を見に行くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者会議にて意見、希望等を聞いている。また意見の表出が困難な場合は、入居者の代弁者として、検討している。	入居者一人ひとりに担当制を取り入れている。日常の会話やしぐさ等から入居者の希望や意向をくみ取るように努めており、意向の確認が困難な場合には家族への確認も行い、本人本位に支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からは日常的な会話からの聞き取りをおこない、家族からは面会時に聞き取りを随時行うなど、把握に努め、アセスメントに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人を見ると、その人のある部分のみを見るのではなく、全体像を捉え、総合的に把握するように努めるとともに、個人の残存能力を把握して役割・趣味など生活の中に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人担当を決め月1回カンファレンス、モニタリングをし、利用者の支援方法を話し合い実行できるよう介護計画を作成している。	入居者の担当制を取っており、担当者の情報等を元に月1回カンファレンスを開き、入居者の支援方法について話し合いを実施している。入居者の出来ることや出来ない事等を考慮した介護計画を作成しており、状態に応じた見直しも随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録、申し送りノートの活用により情報を共有し活かせるよう努めている。またモニタリングを活用し、介護計画の適正を定期的に確認し、入居者の状況に合わせて見直しができるよう配慮している。		

グループホームにちにしちそう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて職員が通院支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方やボランティアの方の来所や協力は、利用者にとってふれあい・楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診する他、3名の入居者についてはかかりつけ医の往診を受けている。	本人や家族の希望する医療機関において受診しており、通院の付添いは家族に依頼しているが、状況に応じて職員が対応している。家族の付添い時には健康状態を記入したメモを渡す他、必要に応じて電話等で情報を伝えており、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職であり、疑問に感じたことなどを気軽に相談できる。また医学的な相談についても事あるごとに主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者のみならずご家族とも連絡を取り合い、行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時折、雑談の際に死についての話題を入居者に振り、考える機会を持っている。	全国的にも施設で最期を迎える方が多くなっている傾向にある中で、ホームとしての対応について職員間での協議や方針の共有に努めている。本人や家族の意向の確認や医療機関との連携等、重度化や終末期への対応に向けた諸条件を整えられるよう検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初歩的な応急処置は各職員が理解しているが、急変や事故発生時には速やかに医師、看護師に連絡している。		

グループホームにちいちそう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の確保はできており、日頃より災害時は地域の人々に協力が得られるよう依頼している。	年2回の避難訓練を実施している。隣接地にあるアパート駐車を避難場所として使用することで了解が得られており、地域住民に対しても災害時に協力が得られるよう依頼をしている。	今後も避難訓練を継続的に実施していく他、協力が得られる地域住民やアパート住民への働きかけ等を継続し、地域住民の参加による訓練の実施に向け、さらに体制整備を図る取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心やプライバシーには配慮した言動を心がけている。	職員は入居者を人生の先輩として敬う心を大切にしながら、言葉かけの配慮や介護にあたっては同性介助を基本にする等、本人の気持ちを大切にしながら支援している。広報誌等に掲載する写真も本人の同意を得たうえで掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に事業所側の考えを押し付けるのではなく、随時希望の確認や入居者会議による希望の表出、自己決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな日課は決まっているが、余暇の時間など柔軟な対応ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に洋服などを買いに行き、自分の好みの物を購入するなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮むき、食器拭き等、入居者と職員と一緒に準備や食事・片付けを行っている。利用者個人に合った食事形態、調理方法にて提供している。	食事の準備や調理、後片づけなどは入居者のできる範囲で職員と一緒に参加してもらっている。献立や食材は法人の方針に従っているが、調理は入居者各々にあった調理方法により提供をしている。おやつはホーム職員と入居者で作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した食事を提供し、食事制限がある入居者に対しても対応している。水分や食事量を把握し、確保出来ない方については嗜好品などを提供している。		

グループホームにちにしちそう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自力による口腔洗浄を促し、介助が必要な方に対しては介助にて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導、状態に合わせた個別的な支援をしている。排泄時間を記録・分析し、パターンの把握に努めている。	入居者一人ひとりの経過記録を参考にしながら、入居者の状態に応じた声掛けや誘導方法等を職員間で共有化を図り、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、体操。おやつ時の乳製品の摂取などで対応している。また、排泄をチェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者本人、家族と相談し、入居者本人の体調も考慮し、実施している。入浴順番はトラブルを避けるため、その日のあいさつ当番が一番で入浴できるようになっている。また希望時、状態に合わせ随時入浴可能である。	入浴は週2～3回、午後の時間帯で入浴している。入浴に拒否傾向が強い入居者には言葉かけを工夫し、入浴に導いている。なお、本人の希望によっては随時入浴できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に、日中は離床に勤め、夜間の安眠を促すようにしているが、体調などに充分考慮している。使いなれた寝具の使用。定期的なシーツ交換、布団干しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をもらい用法等を理解している。また、インターネットで薬の用法などを調べ、理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、台所仕事等、出来ることの支援、役割の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を設けている。また、散歩、買い物等の同行支援を行なっている。	月1回は本人の希望に沿った外出ができるよう支援をしている他、週1回は買い物日を設定して、近くのスーパー等に出掛けている。地域行事の参加や近隣への散歩は随時行っている。	

グループホームにちにしちそう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物への同行も行っている。また、外出時等にも家族の了解のもとお小遣いを持たせてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせ随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光は無い。季節に合った飾り物や花を飾り付けている。またレクリエーションでつくった毎月のカレンダーや季節のぬり絵、貼り絵などを掲示している。	通路の接続部には入居者に分かりやすいように目印をつける等の工夫をしている。食堂には季節毎の飾り付けや入居者の創作品等が飾られており、共用空間には不快な音や光などは感じられなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家改修施設の為、共有空間の中に独りになれる空間は作れていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを活かし、居心地よく過ごせるを基本に、安全性や使いやすさにも工夫をしている。	民家改良型のホームのため、各居室の構造や広さ、間取りは異なっている。入居者各々は好みの物を持ち込んでおり、居室の飾りなども本人の希望に合わせる等の工夫をしている。各居室は個性的で居心地よい生活をしている様子が覗えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	民家改修施設の為、段差など改修困難な場所があるが、段差部分に蛍光テープを貼り「段差注意」と貼りだす工夫をすると共に、利用者に合わせた、手すり設置(トイレなど)を行っている。		